

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 26 日作成)

委員会名	連続体の不均質・多相問題小委員会	主 査 名：源 栄 正 人
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (応用力学運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：上谷宏二
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>連続体力学や応用力学の発展に伴い、構造工学や地震工学の分野においても構造材料、地盤等に対する構成則等の数理モデルの取り扱いが多様化している。連続体の不均質性に起因する諸物理現象は「ゆらぎ」の科学として、捉えることができ、社会との関わりを持ってきている。本委員会は地盤や構造材料などを対象に、連続体の不均質性のモデリングや外乱に対する不均質な連続体の挙動などに着目した数理的手法の現状把握と将来の展望を考える。またこれまでの成果を工学的観点から、積極的に社会に還元する方向でまとめることを検討中であり、建築構造学の発展に資する。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	主査：源栄正人 幹事：神田克久 委員：井口道雄・上林宏敏・圓幸史朗・神園勝彦・小林正実・近藤典夫・薛 松濤・高野真一郎・登坂宣好・西村敏雄・三辻和弥・元結正次郎・吉田一博	
設置 WG (WG 名：目的)		
2003 年度予算	140,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	e-mail 等により委員間の意見交換を行っている。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)
	<p>構成メンバーにより、連続体の不均質性と社会との関わりについて整理を行うとともに、連続体の不均質性のモデリングや外乱に対する不均質な連続体の挙動などに着目した数理的手法の現状把握と将来の展望を state of the art としてまとめる作業を行い、小規模なシンポジウム開催に向けた準備を進めている。</p>
目標の達成度	委員会 HP アドレス：
	(当初の活動計画と得られた成果との関係)
	上記設置目的に沿った活動を進めている。
その他評価すべき事項	